

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101120		
法人名	社会福祉法人 わかうら会		
事業所名	わかうら会		
所在地	和歌山県和歌山市田野180番地		
自己評価作成日	平成22年8月1日	評価結果市町村受理日	平成22年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokohyo-wakayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3070101120&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成22年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な環境が保てるよう、日常の外出支援による地域との交流や本人、家族、職員間のコミュニケーションを大切にしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>万葉の頃からの景勝地、和歌浦湾を一望できる高台に位置するグループホームである。内部から法人施設と行き来ができ、施設での催しにも参加することができる。夏には対岸で行われる花火を職員と共に楽しみ、近くの幼稚園児の訪問を受けるなど、地域とのつきあいにも力を入れている。入居者がお互いに、いたわり合い気遣いあいながら、いつも笑顔を絶やさずに暮らせるよう支援しており、職員は一人一人の尊厳を大切にしている。入居者が自分の家と思い、その人らしくゆったりと生活できるようなケアに取り組んでいる。家族には年3回、写真をたくさん載せた「たより」を出し、また「連絡ノート」を活用しながら日頃の様子を知らせ、家族からの意見や要望を伝えてもらっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼のミーティングの時間に唱和し理念を共有し援助に繋げる努力をしている。	職員達が3年かけて作り上げた事業所独自の理念を玄関に掲げ、毎朝のミーティングで唱和し、理念に添った一日の流れが出来るよう、常に話し合いを持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出の時には地域の人との出会いや日常的な付き合いが出来るよう努めている。	法人施設全体で地域とのつきあいに力を入れており、夏祭りには入居者家族や近隣の人々も参加し交流が生まれ、近隣の人の指導による書道や生花のサークルもある。また、近くの幼稚園児の訪問を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事には、利用者の家族、地域住民も参加したり施設内のクラブ活動でも交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や、取り組み状況等を話し合い意見をサービスに活かせるよう努めている。	区長でもある法人の代表、民生委員、家族、入居者代表、区の支所長や法人職員で開催され、内容は現状報告が主である。家族がもっと参加出来る行事を検討し一層交流を進めていく事を今後の課題としている。	法人外部からのメンバーにも多く参加してもらえよう取り組み、長年不参加である地域包括支援センター職員の参加が望まれ、一層の内容の充実に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者が行政の適切なサービスを受けられるよう随時、市との連携をとっている。	市町村担当者とは、日頃より事務手続きの際に訪問し話し合いを持っている。また、地域包括支援センターからも頻りに連絡を受け、協力関係を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修に参加し互いに気をつけるようにしている。	職員は法人の内部研修を受けている。また、事業所内に身体拘束をしないケアの実践内容を掲示し、職員の意識を統一明確にしている。日中は施錠しないで職員が見守りに徹しているが、入浴に手のかかる時など、止むを得ず施錠する時間帯もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修に参加し早期発見、防止に努めている。		

【事業所名】わかうら会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に必要性が生じた時には、活用出来るよう園内外の研修に参加し学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者より契約書、重要事項説明書等により理解が得られるよう説明を行い疑問点についてはその都度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、運営推進会議、面会時等により意見を聞き運営に反映させている。	家族の来訪時に声を聞くよう心がけ、気軽に話せる関係ができています。各入居者の担当職員が日記風書いている「連絡ノート」を見せられ、また、外泊時には、このノートを持ち帰り、家族が家での様子を記録している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員が月1回テーマを決めて会議を行ったり、その都度意見を出せるように話し合う機会を持っている。	毎月の職員会議では、その月担当のリーダーが議題を決め、入居者との対応の仕方、被害妄想について等、職員間で自由に意見交換が出来ており、そこでの意見を日々の介護につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や資格取得者については評価等を行っている。資格取得等への助成金制度がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度事業計画による研修や園内定例勉強会を通じ育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス、ケアネット和歌山に加入し参加する事で交流し学んでいる。		

【事業所名】わかうら会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前後を通じて介護責任者が傾聴に努め、求めている事に共感しながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より連絡、相談し気軽に話し合える関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と面談し情報の確認、要望を聞き医療他必要なサービスが行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が同じ目線で接するように努め家事等を一緒に行い、支え合い、信頼される関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時や電話により情報交換し共有する事で一緒に本人を支えていく協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や行事での外出には、利用者の知っている場所に行き、知人と出会った時には一緒に会話に加わっている。	週2回地域のスーパーに買い物に出かけ、店員や地域の人達となじみの関係が継続できている。以前の住居に一緒に出かけたり、知人や家族と電話で話すことなど、なじみの関係の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や特性を知りゲーム等に職員も加わり、互いに誘いあい孤立する事がないよう努めている。		

【事業所名】わかうら会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の生活がスムーズに行われているか退所先に面会に行ったり、関係機関より情報を得る等して相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の私の姿像を使用し本人、家族の要望を聞き利用者本位の暮らし方をしして頂けるよう努めている。	思いや意向を把握共有するためにセンター方式を使って記入し、入居者それぞれの担当職員が記録した「連絡ノート」を参考にしながら、その人がした行動や会話の内容から、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、利用者との会話の中で入所前の暮らしや生活環境を出来るだけ把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、情報を家族、介護担当者が共有し本人からも聞くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者等からの情報をもとに話し合い、介護計画を作成したり見直しをしている。	家族には事前に相談し、本人にも希望を聞き、管理者・リーダー・担当者を中心に全職員が関わっている。その人らしい暮らしを支える介護計画を作り、その後のケアの実践評価により現状に即した見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にて日々の様子を把握し、気づきや工夫の情報を共有し実践、サービス計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の診療所や事業所と連携を取りニーズの変化に対応して行けるよう取り組んでいる。		

【事業所名】わかうら会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練、ボランティア、慰問、研修生等の受け入れにより利用者側が積極的に関わり楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医を選択出来るよう支援している。	入居前のかかりつけ医の受診時には家族に「連絡ノート」やバイタル表を渡している。法人施設に併設されている診療所を希望する場合は、職員がノートを持参し、入居者の普段の様子などを伝え、受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の診療所の看護職員に相談し助言を受け日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携により入退院時や入院中、病院関係者、家族と情報交換、相談し関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の希望を伺い、法人の看取りの指針に基づきチームで支援に取り組んでいる。	入所契約時に「看取り」について説明をしている。過去、一件の経験がある。家族を含めた担当者会議を開き、受け入れ体制を考えながら、皆で支援について話し合っている。入居者の状態によっては、関連施設入所や入院の支援もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人での定期的な救命講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体での防災訓練に参加。又、水、食糧は備蓄している。	年2回、法人全体で防災訓練をしているが、訓練の際に混乱を招く恐れがあるため入居者は参加していない。施設は、地域の避難場所となっているが、地域ぐるみの訓練は、3年前に一度行われたのみである。	災害時の対応は隣接する法人と行っているが、地域住民の協力も不可欠である。運営推進会議や自治会などを通じ、地域との協力に期待する。

【事業所名】わかうら会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業計画や研修等により全職員に徹底するよう取り組んでいる。又日常的に互いに注意し合っている。	職員全体で学習を重ね、職員の目線で一人一人を捉えるのではなく、当人の人格を尊重するように気を配っている。日々の関わりで気付いた点は、その場で担当者に伝え、互いに注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	方言や昔ながらの言葉を使い利用者の思いや希望が聞けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の、その日ごとの生活リズムを大切にし希望に沿って支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに、衣料品を見に行ったり、化粧品を買うなどして、それぞれの、おしゃれを楽しんでいる。美容室、散髪も希望に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に利用者と職員が食材を購入し一品を一緒に作り、準備や後片づけをしている。	ご飯とみそ汁はホーム内で作り、できるだけ入居者と共に買物・調理・配膳・下膳・片付け等を行っている。茶碗・箸・湯のみは自分用を使い、和気あいあいとした和やかな食事であるが、職員は食事を共にしていない。	今後、職員も一緒に食事する予定にしているとのことであり、早期の実現に期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成している献立により食事が提供されている。1日に必要な水分量も十分摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に応じて本人と共に口腔ケアしている。希望者には歯科衛生士による口腔ケア指導の往診がある。		

【事業所名】わかうら会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンや行動を察知して理解力に合わせて支援している。	ほとんどの入居者は、自分で自発的に排泄が出来ている。トイレでの排泄が困難な人には記録を取りながら傾合いを見計らったり、本人の動きを観察し、プライバシーに気を付けながら、トイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分補給、医療等にて一人ひとりに応じた予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来るよう準備し、利用者の希望に添ってゆっくり入浴してもらっている。	毎日入浴できるが、時間帯は午後からになっている。入浴を拒む人には、タイミングを計った職員の言葉かけで無理強いしないよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々が生活習慣に合わせて好きな時間に好きな場所で休息、安眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書や看護師の助言にて副作用等を把握して服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や習慣、趣味を活かせる場面を持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定期的買い物、ドライブに外出している。花見、食事会には全員が参加できるようにしている。家族の協力が得られるよう努力している。	週2回は、買物に行ったり美容室に行く。ホームの玄関前を散歩したり、花壇や畑の水やりの世話をし収穫を楽しみにしている。外出の困難な人は、月2回、法人にやって来る訪問販売等で必要なものを買っている。	

【事業所名】わかうら会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じて外出による買い物、訪問販売等の購入支援を行っている。持っていないと不安に思う方には家族と相談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉物や家具の配置を考えなが、心地よく過ごせる工夫をしている。	高い天井と白い壁で広々とした明るい空間があるが、入居者の作品や新聞の切抜きの掲示、職員の制服で、生活感が薄く施設の様なおとなになっていく。昨年の外部評価の提案でソファの位置を変えたら、食後入居者が思い思いに集まり語り合えるようになった。	入居者の住まいとして家庭の延長としての生活の場となるように、壁の装飾や職員の制服の見直しを検討することが望まれる。自宅のようにゆったりとくつろぎ、会話が生まれ生き生きと生活できる一工夫が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、椅子等の配置を工夫し思い々の場所で過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、好みの物を置き写真を飾る等してそれぞれの部屋造りをしている。	部屋の扉の窓ガラスには思い思いのカーテンで入居者の個性がでていく。仏壇を祀ったり、冷蔵庫、テレビ、自作の書や花を生けて飾ってある部屋もあり、入居者一人一人が居心地よく過ごせるような工夫がみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーにしている。廊下、トイレ、風呂場に各々手摺を設置。利用者の動線を考え工夫している。		